

**港北区地域子育て支援拠点事業  
令和5年度重点目標評価結果・令和6年度重点目標**

事業実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日(4年度目／5か年度)
事業の実施者	認定NPO法人びーのびーの 港北区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを産み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 港北区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営</li> <li>2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に関わった運営</li> <li>3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営</li> <li>4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営</li> <li>5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営</li> <li>6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営</li> </ol>
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業)</li> <li>2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業)</li> <li>3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業)</li> <li>4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業)</li> <li>5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業)</li> <li>6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業)</li> <li>7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</li> </ol>
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。</li> <li>2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。</li> </ol>

## 令和5年度重点目標の評価

令和5年度 重点目標①	新制度に基づく子サポ事業の周知強化と街づくりを目指した人材づくり
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市域での事業周知に努めるとともに、令和4年度に試行実施した子サポ拡大予定者研修との連動による、区内全体での子育て分野に関わる研修を関係機関とも協働・連携し、実施する。子育て分野に加え、高齢分野や障がい分野においても分断されず、活動に興味を持った方への活躍の機会を横断的に仕組みとして構築していく。</li> <li>●20歳代からの提供会員としての登録へのアプローチや、学生のボランティア活動の場としても継続実施し、学生がひろば預かりを試行実施する等、預かりの敷居を下げるとともに仕組みを検討・構築する。</li> <li>●企業や子育て支援に関係の薄い層にも、「子育て応援隊」缶バッジの啓発普及活動等を通して、具体的に子育て支援に関わるメニューや機会を提案していく。</li> <li>●制度を利用する側から担い手側への関心や循環を促していくとともに、多様な担い手の活躍の場の裾野を拡げ、多世代との連携を通して、地域の活性化や子育てに優しい街づくりを目指していく。</li> </ul>
取組の成果	<p>○近隣区4区合同の予定者研修会の実施に加え、港北区支部主催の予定者研修会を2回開催。うち1回は拡大版予定者研修会とし、港北区の全小学校の協力を得てチラシを配布したことで、拡大版予定者研修会に参加した140名のうち20名が提供会員向け研修に継続参加し、担い手としての関心を深めた。</p> <p>○無料クーポン券配布対象の家庭向けの入会説明会(臨時開催)を8月以降に毎月実施(計8回)したことで、一時預かりの高いニーズに対応するとともに、拠点への初来館や夫婦での参加など、家族以外の人の手を借りることへの敷居を下げる機会に繋がった。</p> <p>○7月の制度改変により、通常の入会説明会に加え無料クーポン券配布対象者向けの説明会を行ったことで、産後の休息やきょうだい児の送迎、産後うつや集団の場に交わることが難しい家庭等の利用促進にも繋がった。</p> <p>○近隣の国際交流ラウンジで出張説明会を開催した。ひろば利用者にも外国に繋がる家庭が増えているため、近隣の地域ケアプラザとの三者で連携し、説明会資料等をやさしい日本語で作成し実施した。10組の参加があり、親子の現状理解とともに参加しやすい工夫を検討する場を持つことで、施設間での事業理解にも繋がった。</p> <p>○子サポ提供会員、拠点内での保育ボランティア、産前産後ヘルパー、親と子のつどいの広場スタッフなど、主に預かり事業の担い手を対象とした合同研修会を企画、実施した。講師からの人権を尊重した受入の心構えとともに、お互いの活動を知る機会や情報共有の場ともなり、新たな分野の支援にも裾野を拡げる機会ともなった。</p>
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用会員と提供・両方会員のアンバランスな状況(特に北部地区)と、提供会員が高齢化しているため、学生を含む若手人材へのアプローチが必要。</li> <li>●学童期の朝の送迎依頼等が増えているため、子育て分野に加え、障がい分野や高齢分野の関係機関との横断的な連携による担い手への働きかけと活躍機会の構築が必要。</li> </ul>

令和5年度 重点目標②	多様な主体との協働によるアウトリーチと地域に根ざした出張ひろば事業の更なる定着
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ひろば事業を通して、利用者同士、地域の支援関係者との関係性を育んでいくとともに、利用家庭を丁寧を受け入れていく基盤を支援関係者と整え、他社会資源との繋ぎを相乗的に行っていく。</li> <li>●拠点と接点を持ちづらい層へのアプローチとして、多様な主体との協働によるネットワークを構築し、子育ての情報発信を含めた場づくりを推進していくとともに、近隣保育園、親と子のつどいの広場等との連携によるプログラムの合同開催や外遊び企画なども検討・実施していく。</li> <li>●自治会町内会で開催している地域行事やイベント等を案内し、地域との接点を持つことで地域が一体となって子育てを応援しているメッセージや地域で育つイメージ等を感じてもらい、地域への愛着に繋げる。</li> <li>●子育てネットワーク会議を定期的開催し、事業の効果検証を行うとともに、地域の課題共有や効果・成果を自治会町内会、支援関係者と共有し、地区での更なる理解と定着を図れるよう推進していく。</li> </ul>
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ひろば事業を通して、拠点には来館しづらい層や地区の居場所や社会資源等と接点を持つに過ぎていた子育て家庭が場に足を運びきっかけとなった。</li> <li>○社会資源を一元化した情報マップを作成する過程において、利用者同士で社会資源やおすすめの場所を紹介する時間を創ることで、地区の社会資源を知り地域への関心や愛着を深める機会にも繋がった。</li> <li>○利用家庭の仲間づくりの場としても機能するとともに、他の社会資源への関心が高まったことで、子育てひろばへの見学会実施や公園へのお散歩企画など、具体的に実働できた。</li> <li>○利用に慣れた利用者が新規来館者や利用の浅い家庭に対して、場での迎え入れを行ってくれすることで、利用者同士の支え合いの循環がなされた。</li> <li>○多様な主体との子育てネットワーク会議を年3回実施した。親子の現状を共有し、それぞれの強みを活かした連携が図れたことで、情報発信機能を高めるとともに次の社会資源への丁寧な繋ぎや地区全体で親子を受け入れていく意義を共有することができた。</li> </ul>
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地区全体で親子を受け入れていく意義を共有することができたため、今後は多様な主体との協働による成果効果を地区全体で共有し、積上げていく。</li> <li>●社会資源を一元化した情報マップの各機関での活用や具体的な取組(スタンプラリーなど)を通じた、暮らしやすさや安心感など、意識や行動変化等を検証していくための事例を積み上げていく。</li> <li>●子育て支援活動を継続するための担い手、団体を支える仕組みづくりが必要。</li> </ul>

令和5年度 重点目標③	親になる前の支援事業の充実と子育て世代包括支援センター機能の構築
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●母子保健コーディネーターと横浜子育てパートナーとが連携し、伴走型相談支援の充実を図ることで、産前産後の現状課題を踏まえ、必要な取組をそれぞれの立場で推進、共有していく。その家庭にとって必要な場や人への繋ぎ、制度やサービス等の情報を届け、妊娠期から産後すぐの家庭への支援を更に強化していく。</li> <li>●「4か月児健診調査」の効果検証等を産前産後支援に関わる専門職、関係機関、支援関係者とともに共有し、妊娠期から安心して産み育てられる環境づくりや具体的な仕組みづくりを検討、展開していく。</li> <li>●第2子向けや父親向けプログラムを継続実施することで、出生数が多い区であるため、これまで関わりを持ちづらかった層に向けても更に支援を強化していく。</li> <li>●各地域の子育て支援関係者(主任児童委員や子育て支援者、親と子のつどいの広場、区社協等)との連携のもと、区内小学校・中学校とのふれあい体験授業を通して、学生が乳幼児家庭とふれあうことで、親になるイメージや子育てへの肯定意識を育むなど、効果・成果を学校や支援関係者とも共有し、取組を拡げていく。</li> </ul>
取組の成果	<p>○母子保健コーディネーターと子育てパートナーとの共有会では事例や事業趣旨等を共有することで、相互の役割や事業の方向性等を深める機会ともなった。また、妊娠期後期から産後に切れ目なく繋がるためのアプローチの強化については、アクセスしやすいようWEB申込への切り替えや対象者を限定したプログラムを設ける等の工夫をし効果が見られた。</p> <p>○これまで課題であった第二子、第三子を出産した利用者同士が繋がりを持てる座談会など、利用者主体の企画が増えたことで、多様なニーズに対応することができた。</p> <p>○父親からのニーズをもとに通常の土曜日開催に加え、平日に父親の会を実施したことで育児休業中の父親が集まり、育児全般の話に加えて日常感じていることなどについて、話を深めることができた。また、父親の会に参加した利用者が横浜市主催の父親支援講座(養成講座)への参加後に、父親の座談会を企画するなど、日常でのピアな関係作りや循環がなされた。</p> <p>○乳幼児との触れ合い体験授業の取り組み成果等を学校や支援関係者と共有し、今年度も市立高校、市立中学校、市立小学校で実施した。小・中学校合同校長会での成果効果の共有、メディア等での紹介を通じて、触れ合い体験授業の今後の普及啓発にむけてのアプローチができたことで、事業理解が進んだ。</p>
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第二子以降向けの家庭へのアプローチや事業の組立等については更なる工夫が必要。</li> <li>●「4か月児健診調査」での結果共有については徐々に着手しているが、結果から見えてきた現状課題については、関係機関や支援関係者等との更なる共有と検討の場が必要。</li> </ul>



## 次年度重点目標

令和6年度 重点目標	こどもの視点を尊重した育ちを保障していくための風土づくり
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●こども家庭庁が提唱している「はじめの100か月の育ちビジョン」において、「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高めていけるよう、乳幼児期から安心して人との出会いや物にふれる機会を創っていくとともに、こどもの想いや願いを感じ取り、体験を積み重ねていけるよう、親や親以外の人ともその過程を共有していく。</li> <li>●日常のひろばでこどもが安心して感情を表出し話せる環境を創っていくとともに、こどもの声や意向に寄り添い、こども自身が尊重され大事にされる経験をする中で、自分に自信を持ち自己肯定感を育める居場所づくりを目指していく。</li> <li>●遊びを通して、こどもの持つ面白さや想像力などを最大限に惹きだしていくとともに、その可能性が成長発達に繋がる大切な過程であることを親や親以外の人とも共有し、日常の中でこどもの育ちを喜び合える時間を創出していく。</li> <li>●ひろばの環境設定や遊びのプログラム企画、多様な年齢がダイナミックに遊べる工夫に加え、外遊び、お散歩などの企画を一時預かり事業や地域の活動団体とも連携実施し、こどもが主体的に遊びこめる居場所としての機能充実に努める。</li> <li>●一時預かり事業等を通して、保育者から客観的な視点でフィードバックすることで、親がこども自身の持つ力や今できていること等に気づき子育てに対する肯定意識を高めていくとともに、こどもの日常の過ごしを担保しつつ、親以外の人とも安心して愛着や信頼関係を育んでいける接点を多く創っていく。</li> </ul>
令和6年度 重点目標	親になる前の体験の仕組みづくりと安心して産み育てられる環境の醸成
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乳幼児とのふれあい体験授業を通して、学生が乳幼児家庭とふれあうことで、親になるイメージや子育てへの肯定意識を育む過程の大切さや、乳幼児親子にとっても自分の子育て経験が役に立つ有用感など、その相乗効果を学校や支援関係者とも共有し、次世代へのポピュレーションアプローチとして普及啓発に取り組む。</li> <li>●これから産み育てる層の学生に向けても、ボランティア活動や子育てサポートシステムの担い手となる研修(eラーニングを活用)等を通して、子育て家庭の現状理解とともに、ひろば預かり等を試行実施するなど関わりを深められる機会を創出していく。</li> <li>●区内全体として第一子を優先とする事業等が多いため、第二子以降の家庭や父親などに向けても、参画できる事業や取組を強化していく。</li> <li>●5か年継続実施している、4か月児健診受診者対象の調査の分析結果を産前産後支援に関わる専門職、関係機関、支援関係者と共有するとともに、妊娠期から安心して産み育てられる環境や仕組みを検討し具体的に展開していく。</li> <li>●子育て家庭が周囲の手を借りられるような環境づくりや、その人自身が自分らしくいられる家族のあり方を選択・応援できるような風土づくりに取り組む(里親制度の仕組みや現状理解等を含む)。</li> </ul>
令和6年度 重点目標	地域団体の活動応援と街づくりを目指した地域人材の参画の場づくり
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域資源の現状を把握し、地域の子育てサークルや活動団体が継続的に活動できるよう、支援関係者と団体の意向や地域の声、他地区での成功事例等を共有するとともに、共通認識を持ったうえで担い手を支えていく。</li> <li>●子育て支援に関わりの薄い層や企業等にも働きかけていくとともに、新たな担い手の発掘に加え、担い手として活動の裾野を拡げていけるような取組内容を障がい分野や高齢分野等の関係機関とも連携し、横断的な仕組みを検討していく。</li> <li>●地域や学校等との連携事業や子育て応援隊缶バッジの普及啓発活動等を通して、若い世代が担い手として参画できる仕組みづくりを行っていく。</li> <li>●子育て当事者が自分たちの生活課題から意見出しができたり、自分の生活をより豊かにするために語れる場や活躍できる場の創出など、街づくりを視野に入れて官民が一体となって取り組める機会を創っていく。</li> </ul>